

宮農情報 (麦)

第45号 令和3年3月16日

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

令和3年産麦の生育は、1月中旬以降の高温の影響で平年より早く推移しています。出穂期は、生育の早いほ場において、平年に比べ一週間ほど早まることが予想されますが、播種時期等により生育に差がみられるため、麦の生育に応じた管理作業に努めましょう。

今後の降雨が麦へ与える影響は大きいので、枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないように排水対策を徹底してください。

生育調査結果

品種	場所	播種日	3/8時点の生育状況	
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
シロガネコムギ	大川市(指標田)	11/18	59	590
	平年値(H30~R1)		39.7	482.3
ちくしW2号	大木町(指標田)	11/29	40	504
	平年値(H30~R1)		38.3	465.0

・3月8日現在、草丈は平年より高く、茎数は平年より多くなっています。
※平年値は平成30年産から令和元年産の平均値です。

予想出穂期 「シロガネコムギ」、「ちくしW2号」とも
11月下旬に播種の場合、 **3月31日頃**

※予想出穂期は今後の気温次第で前後する可能性があります。

2 赤かび病防除

◎防除適期は、開花期（出穂後7～10日）です。

※出穂期は、ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日になります。

<防除の目安> ※11月下旬頃に播種の場合

品種	防除適期	薬剤名		10a散布量	備考
シロガネコムギ	4月6日～4月10日ごろ	粉剤	トップジンM 粉剤DL	4kg	出穂期以降2回以内
ちくしW2号	1回目：4月6日～4月10日 2回目：1回目の7～10日後	液剤	トップジンM 水和剤	1000倍 (液量100ℓ)	収穫14日前まで

<赤かび病防除の注意点>

●前記の防除適期は、3月31日ごろに出穂したほ場の目安です。出穂がそれ以降のほ場では、開花期も遅くなるため、必ず開花(白い葯が見える)を確認し、適期防除に努めましょう。

●「ちくしW2号」は赤かび病にやや弱いため、必ず防除を2回実施します。

●出穂期に「降雨+温暖」の気象条件が続くと、赤かび病が多発する恐れがあり、シロガネコムギにおいても2回目の防除が必要になる場合があります。

●防除は、朝夕の風のない時に行いましょう。隣接ほ場に他作物が作付されている場合は、農薬が飛沫しないよう特に注意して下さい。

3 穂揃期追肥(ちくしW2号)

この2年、豊作が続く、子実タンパク質含有率が低い傾向となっています。令和3年産麦についても、莖数が多く、豊作が見込まれます。1回目の追肥時期が早まると子実タンパク含有率が低下しやすくなるという傾向があるため、追肥が1月中旬より早かったほ場や葉色が薄いほ場は、穂揃期追肥の量を増やします。また、令和3年産麦では、産地交付金の対象にタンパク質含有率が12%以上の硬質小麦(ちくしW2号等)が追加されました(交付単価600円/10a～、達成者数によって変動)。収量の確保とともに、品質向上を目指しましょう。施肥量は以下のとおりです。

	穂揃期追肥(10aあたり)
・1回目の追肥が1月中旬より早い場合 ・葉色が薄い場合	硫安15kg または尿素3kg(液量100ℓ)を2回葉面散布 (2回とも赤かび病防除に混ぜて施用)
・1回目の追肥が1月下旬～2月の場合	硫安10kg または尿素4kg(液量100ℓ)を葉面散布 (1回目の赤かび病防除に混ぜて施用)

～赤かび病防除と同時の尿素葉面散布の方法～

赤かび病防除時期(開花期)に、尿素と農薬を、水100ℓに溶かして散布します。なお尿素葉面散布の場合、晴天で気温が高い日などは、葉先や芒が若干枯れますが、粒の充実や収量への影響はありません。

また、散布後は散布器具が故障しない様、洗浄を入念に行います。(ノズル、ホースだけでなく、器具全体を水洗いする)

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!

シートベルト着用など、農作業安全に努めましょう!